

# 第 15 回手話通訳技能認定試験（実技）

## 聞き取り通訳試験（問題）

### 第 1 問 テーマ「声を掛け合う」

先日、仕事で、ある地方都市に出かけた。

夜も 8 時をまわっていたと思う。予約した今夜の宿を探し、すっかり暗くなった住宅街を迷いながら歩いていたら、自転車に乗った小学校 3 年生位の女の子が向こうからやってきた。自宅に急いでいるのだろうか、道は暗いし、危ないなあと思っていたら、すれ違いざまに「こんばんは」と女の子が私に声を掛けて、走り抜けて行った。慌てて、振り返りながら私は「こんばんはー。気を付けてねー」と、ことばを返した。「ありがとうございます」という声を残して、小さな影は、路地に消えた。

大きな重いかばんを、それも両肩に背負い、きょろきょろしながら歩いていた私は、不審者に見られたりはしなかっただろうかと思いながら、初めて訪れたこの町の教育の良さを感じていた。

「見知らぬ人には近づかないように」「見知らぬ人に声を掛けられても知らぬ顔をしていなさい」と、世の大人たちは子どもに言って聞かせる。しかし、この町の人たちは、「だれにでも声をかけるように」と教えているようなのだ。

そういえば、先程、駅から乗った乗り合いバスでも、乗客の皆が、バスを降りる時に、子どもが運転手に「ありがとう」、大人も「ありがとうございました」と声を掛けて、降車していたことを思い出した。見ていて、とてもすがすがしく感じた私は、バスを降りる時に、慣れない口調で、運転手に礼を述べてみた。生まれて初めての経験。運転手の笑顔が目に残っている。

見上げれば、夜空に、満天の星。南の空には、ひときわ明るく、この夏 6 万年振りに地球に大接近したという火星が輝いていた。

### 第 2 問 テーマ「幾つになっても人間は向上する」

私たちの記憶力は 25 歳あたりをピークとし、その後何も訓練しないと低下していき、80 歳位にはゼロに近くなるとされています。

ところが、かのハーバード大学医学部で信じられないような研究結果が発表されました。

「40 歳から 60 歳の間にあらためて勉強し、それを続けていると、いったん下がりがかけた曲線がもう一度上昇し、80 歳の時には 25 歳の時よりもさらに上に位置するようになる」というグラフが示されたのです。

91 歳の女性がハーバード大学工学部建築学科に入学。40 代半ばから勉強をやり直して、なんと 45 年間かかって最難関を突破。

日本では、72 歳でご主人を亡くされた吉田よしだそのえさん。その時できれば一度はやりたかった英語の A B C を習い始めて、81 歳で吉田英語塾を開設。95 歳にして自ら高校生までを教えたという。

60 歳ではり・きゅうしんきゅうの学校を卒業された柴崎保三しばさきやすぞうさん。その時に 2 千年以上も前の中国の針灸の医学書が、そのあまりの難しさに日本でだれも翻訳していないことを知り、中国語の初歩から勉強し、25 年間かけて翻訳したという。

新聞やテレビなどでこんなニュースを目の当たりにすると何やら勇気づけられてくる。

「もう年です」の口癖をやめて「まだ幾つです」の思いで自分の潜在能力に挑戦していきたいものです。

# 第 15 回手話通訳技能認定試験（実技）

## 読み取り通訳試験（手話表現の要約）

### 筆記通訳 テーマ「ろう者としての私」

私は、厳しい口話教育を受けてきました。自分も頑張ったので、口話もわかります。聞こえない人の手話は、自分とは無縁と思っていました。

その後、聞こえない彼と結婚して、聞こえない子どもが生まれました。

ある時、夫と手話で話をしているのを、子どもが見ながら、手を動かすのです。感動しました。

この子が大きくなった時に、ろう者としての誇りをもった人になって欲しいと思いました。ろう者としての私に誇りを感じています。

### 口頭通訳 テーマ「仕事の辛さを乗り越えて」

ろう学校高等部を卒業して、理容店で、見習いとして働きました。いろいろな苦しみがありました。

先生から、厳しく指導を受けて、怪我をすることもありました。

やがて、九州での大会に参加しました。

聞こえる人ばかりの中で頑張り、三位に入賞しました。

先生は、大変喜んでくださり、会場にいた人達も、拍手をしてくれました。